



五中だより

府中市立府中第五中学校

校長 伊藤 淳

令和4年3月17日 No.11

「冬来たりなば 春遠からじ」

朝と昼の寒暖差はあるものの、春へと季節が移り変わってきていることを感じるようになりました。

23歳から7年間、北海道の十勝支庁にある2校の中学校で教員として働いていました。最初に赴任した学校は大雪国立公園の中にある小さな学校でした。季節により実に色とりどりの景色が見られる場所でした。日直の教員は毎朝、その日の最高気温と最低気温を校庭にある気温計が入っている箱で確認し、記録するのが仕事の一つでした。1日だけ私が日直の時にマイナス30度を記録したことがあります。冬の寒い時期、家の近くでは「パーン」という音が聞こえます。急激な寒さで木の中の水分が凍結して膨張し、それに耐えきれず幹が割れてしまう、その時の音です。そんな厳しい冬を過ごしていると、東京で感じていた春の訪れとはまた違ったものに気がつきました。それは、太陽の日差しの暖かさとありがたさ、その日差しが強まり雪解けが進む時の水の音など…。春になると、厳しい冬の間に準備をしていた草木が芽吹き始めます。春の訪れが嬉しかったことを思い出します。

新型コロナウイルスの感染が2年以上続いています。今年も、修学旅行や宿泊行事が中止となったり、部活動も制限されたりと、だれもが不自由さを感じ、耐えることも多くありました。季節に例えれば、厳しい「冬」となるのかもしれませんが、しかし、その中でも感染予防をし、できる工夫を行いながら生徒たちは元気に過ごし、学びを進めてきました。さまざまなことに取り組んでいる生徒たちの姿からは、春のその日に向けて、冬を耐え、力を蓄えていることを感じさせます。

『冬来たりなば 春遠からじ（ふゆきたりなば はるとおからじ）』・・・もともとは英語で「If Winter comes, can Spring be far behind?」。作者はイギリスの詩人シェリーで、「西風に寄せる歌」の一節に出てきます。「寒くて暗い冬が来ているということは、暖かく明るい春がやって来るのもそう遠くないはずだ」という意味です。これを人に当てはめてみると、「辛く悲しいことがあっても、冬の次には必ず春が訪れるように、やがて明るく幸せなときはやってくる」という意味になります。桜の花のつぼみは、冬の寒い間にふくらみ、そして暖かくなって花開くときを待っているのです。つらいこと、悲しいことを経験したことのある人は、それを乗り越える中で、一步一步強く優しくなっていくます。それは、ちょっとした変化に気がついたり、ありがたさを感じることができ、前よりも成長している自分になっているからだと思うのです。

コロナ禍での厳しい日が続きますが、冬は必ず春になります。皆さんの心や周りにも、暖かい太陽の日差しと、きれいな花々が咲く日も来るのです。

令和3年度ももうすぐ終わります。それと同時に、五中に力を蓄えてくれ、中心となって引っ張ってくれた3年生の旅立ちの日がやってきます。

最後に、この一年間、保護者の皆さまには、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

卒業式予行での感動的なできごと

3月16日（水）3・4校時に卒業式予行がありました。例年だと全学年生徒が参列し、本番と同じように進行の確認を行うのですが、今回は保護者席の位置に2年生のみが座り、1年生は参加できませんでした。アリーナに3年生と2年生が一堂に会するのは今年度最初で最後となります。

予行が終わり3年生が退場する前に、3年生全員が回れ右をして2年生の方を向き、3年生数名が前に出てきました。そして、3D 依田・音さんが話し始めました。

「今日は、卒業式の予行練習を見に来てくれてありがとうございます。どうでしたか？ 私たちの代は、卒業式に一度も出ることができていないので、五中の卒業式がどんなものなのかわかりませんが、良いものにしたいと思っています。2年生に本番を見てもらうことができないので、この予行練習の様子や雰囲気少しでも覚えていて、自分たちの時に思い出し、活かしてくれたら嬉しいです。

2年生には、委員会や部活など様々な場面で助けられました。この2年間は例年とは異なり、他の学年と何かをすることが非常に少なかった気がしました。私は、行動力がありアイデア力もある2年生を見ていて、自分ももっと頑張ろう、負けていられない、という気持ちになっていました。部活では、明るく楽しく1年生をリードしてくれました。そして時には、3年生とぶつかることを恐れず、活発な部活になるよう自分の意見を伝えてくれました。その行動を忘れず、自分の考えを持ち、五中を引っ張ってってください。私たち3年生を支えてくれて、本当にありがとうございました。」



さらに、3B 佐々木乃愛さんが続きます。

「私たちの学年は、中学1年生の冬からコロナウイルスが流行り出してしまい、一時期は休校もあって思うようにいかない中学校生活でした。2年生の時には運動会や合唱祭、職業体験、3年生の時には修学旅行も中止になり、別の行事になりました。このような状況だったので、できないことがたくさんありました。ですが、この状況だったからこそ体験できたこともたくさんありました。この経験は、これからも私たちの力になってくれると思っています。そして、次は2年生の皆さんの出番です。制限の厳しい中で、新しいことにも前向きに私たちを全力で支え励ましてくれた2年生は、私たちにとってとても心強い存在でした。4月には、最高学年、加えて受験生にもなり、今まで以上に忙しくなります。学校のことも考えながら、自分の将来や進路について考えなければなりません。その中で今できることを数えて諦めるより、今しかできないことをたくさん考えてほしいと思います。皆さんならできると、私たちは思っています。五中をよろしく願います。」



続いて、3年生一人ひとりが桜の花びらに書いた2年生へのメッセージが贈呈されました。すると、それを受けた2年生が、学級代表委員を中心に3年生への感謝の言葉を伝えました。3年生の優しさと2年生への期待、2年生の決意と3年生への感謝、まるで「卒業前の引継ぎ式」のようでした。3月17日1校時の卒業式練習では、1年生に対しても3年生からのメッセージが述べられました。とても素敵な時間を共有できて、私たち教員も幸せな気持ちになりました。